

社会心理学研究の最前線

心の問題は、個人の内面にとどまらず、社会環境や制度、組織やコミュニティのあり方と深く結びついています。心理と社会の両面から課題に向き合うことが、これからの時代には一層重要になります。2027年4月、京都産業大学は現代社会学部に心理学科を3つ目の学科として開設(届出中)します。それに先立ち、社会心理学分野の研究者をお招きし、最新の研究や課題について学ぶため、セミナーを開催します。心理学分野の専門家だけでなく、他分野を専門とする方々や学部生など一般の皆様にもわかりやすくお話しいただきます。

2026年6月26日 **金** 13:15～16:45 (開場12:45)

会場：京都産業大学 13号館 13B01教室

プログラム

総司会 藤野 敦子 (京都産業大学 副学長・心理学科設置統括 現代社会学部 教授)

セミナー 【13:20より】 (14:45～15:00および15:40～15:45は休憩)

モデレーター：吉川 左紀子 (京都芸術大学 文明哲学研究所 客員教授)

講演1 【13:25～14:05】

唐沢 かおり (東京大学大学院 工学系研究科 特任研究員 日本心理学会 理事長)

「科学知・実践知としての社会心理学」

講演2 【14:05～14:45】

大高 瑞郁 (東洋大学 社会学部 社会心理学科 准教授)

「反ステレオタイプ事例の提示による潜在的な父親・母親ステレオタイプへの介入効果」

講演3 【15:00～15:40】

工藤 泰幸 ((株)日立製作所 研究開発グループ システムイノベーションセンタ 主任研究員)

「社会的ジレンマ状況における協力的行動の予測モデルとその応用」

討論 【15:45～16:30】

モデレーターと3名の講師によるトーク

*セミナー終了後、ささやかな懇親会を用意しています。

参加申込み・問合せフォーム



下記URL、もしくはQRコードからお申込み・お問合せ下さい。

<https://forms.cloud.microsoft/r/jZNNVcVGBj>

登壇者紹介・講演概要

吉川 左紀子 (京都芸術大学 文明哲学研究所 客員教授)

プロフィール: 専門は認知心理学。顔の記憶、表情の認知特性、対面コミュニケーションなどの研究を行ってきた。京都大学大学院教育学研究科教授、京都大学こころの未来研究センター長、京都芸術大学第6代学長を歴任。京都大学名誉教授、日本ユマニチュード学会理事。博士(教育学)。

唐沢 かおり (東京大学大学院 工学系研究科 特任研究員 日本心理学会 理事長)

プロフィール: 専門は社会心理学・社会的認知。対人判断における心の推論、偏見とステレオタイプ、道徳的判断、科学技術の社会受容などを研究。日本心理学会理事長、RISTEX RInCAプログラム総括、SIP「サーキュラーエコノミーシステムの構築」のSPDなどを務める。博士(心理学)(Ph.D)(UCLA)。

講演タイトル: 科学知・実践知としての社会心理学

概要: 本講演では、「科学知」と「実践知」という二つの観点から、社会心理学の特徴と可能性について考える。社会心理学は、社会的な行動の背後にある「心」の働きを探求する学問である。科学知としての側面に関する議論では、「社会の中の個人」を対象として、科学的方法により社会的な心の働きを明らかにするという、社会心理学のアプローチを紹介する。さらに、SIP、RISTEX等でのマネジメント経験を踏まえ、社会介入や行動変容をめぐる実践上の課題についても論じる。知見を役立てる試みのありかた、それに関わる問題に触れつつ、実践知として目指すべき方向についての考えを共有し、質疑を通して議論を深めたい。

大高 瑞郁 (東洋大学 社会学部 社会心理学科 准教授)

プロフィール: 専門は社会心理学。研究関心は対人関係や対人援助、男女共同参画、ウェルビーイングなど。博士(社会心理学)。日本心理学会代議員、日本社会心理学会理事など。

講演タイトル: 反ステレオタイプ事例の提示による潜在的な父親・母親ステレオタイプへの介入効果

概要: 本講演では、反ステレオタイプ事例の提示によって、潜在的な父親・母親ステレオタイプが平等主義的になることを実証した介入実験研究を紹介する。日本は、父親が母親とほぼ同じ期間の休暇を取得する権利を持つ唯一の国であるにもかかわらず、父親の育児取得率は著しく低い。その一因として本研究は、潜在的な父親・母親ステレオタイプに焦点をあて、反ステレオタイプ事例として、育児休業を1年間取得した父親の育児休業体験日記を提示し、IAT(Implicit Association Test)を用いて測定した「父親=仕事」「母親=家庭」という潜在的な父親・母親ステレオタイプが平等主義的になることを実験によって示した。育児休業の取得を検討する父親だけでなく、周りの人々の理解を促す方法について、議論を深めたい。

工藤 泰幸 ((株)日立製作所 研究開発グループ システムイノベーションセンタ 主任研究員)

プロフィール: 1991年に(株)日立製作所に入社後、約20年にわたり液晶ディスプレイの研究に従事。その後、コンピューティング研究を経て、現在は社会課題解決型の研究開発を推進。社会的ジレンマ研究は、2017年から2025年まで在籍した日立京大ラボにて検討を開始し、現在に至る。博士(情報科学)、博士(社会心理学)。

講演タイトル: 社会的ジレンマ状況における協力行動の予測モデルとその応用

概要: 社会的ジレンマとは、個人にとって合理的な行動が集団全体に不利益をもたらす状況であり、ごみ問題、資源の浪費、環境破壊など、多くの社会問題の背景要因となる。その解決に向けては集団利益のための「協力」が必要であり、ナッジなどの行動変容手法が注目されている。一方、協力行動の規定要因は多岐にわたり、個々の現場で最適な介入策を見極めることは難しい。そこで、社会的ジレンマ研究における膨大な実験データに着目し、これらを機械学習することで、特定の状況下での協力行動を予測するモデルを開発した。本講演では、本予測モデルの概要に加え、その応用として、有効な介入策をリコメンドするソフトウェアツールを紹介する。

京都産業大学

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都駅から地下鉄の場合

- 地下鉄烏丸線「北大路」駅下車、市バス 北3系統「京都産大前」
- 京都バス「京都産業大学前」
- 地下鉄烏丸線「国際会館」駅下車、京都バス 40系統「京都産業大学」



キャンパスマップ

